

旧石器ハテナ館だより

せんとうき 尖頭器



尖頭器とは、主に旧石器時代に使われた狩猟具です。

旧石器ハテナ館
(史跡田名向原遺跡)
旧石器時代学習館

神奈川県相模原市中央区
田名塩田 3-23-11
Tel042-777-6371

平成 25 年 6 月 14 日
【 第 19 号 】

文化財
探訪報告



雨の中 原当麻駅～田名向原遺跡探訪

原当麻駅から田名向原遺跡を目指しながらの文化財探訪を 5 月 11 日に行いました。当日はあいにくの雨模様だったため、参加者が 7 名となってしまいましたが、解説の声が行き届き、また安全面でも把握しやすい人数でした。各ポイントでの解説は、引率した文化財調査普及員とハテナ館職員が担当しました。

原当麻駅で出発の集いをして、早速最初の見学地、九坊院遺跡に向かいました。

九坊院遺跡

光明学園幼稚園に到着しました。一見すると遺跡があった場所とは分かりませんが、幼稚園建設に伴い調査された遺跡です。ここから柄鏡形敷石住居跡が出土しています。出土土器から縄文時代後期前葉期のものと考えられています。

当麻東原古墳

九坊院遺跡から 5 分ほど歩いたところに当麻東原古墳があります。相模川を望む段丘に築かれ、横穴式石室を持つ円墳です。7 世紀に造られたもので、石室からは馬具や装身具など 400 点以上が出土しています。地元では馬塚、名馬塚と呼ばれていました。

< 礫層と関東ローム層の露頭 >

当麻山無量光寺に向かう崖沿いの坂の途中に礫層と関東ローム層の露頭を見付けました。この礫層は田名原段丘礫層で相模川が運搬して堆積したものです。かつてこの地に相模川が流れていたことを物語っています。

当麻山無量光寺



当麻山無量光寺の山門

山門は高麗門様式を取り入れた 17 世紀初頭のものとして推定されています。高麗門は城内のものとしては多く見られますが、寺院では珍しい様式です。この山門は、仮本堂に安置されている本尊の木造一遍上人像立像、無量光寺文書とともに市有形文化

当麻東原古墳よりも一段下に当麻山無量光寺があります。時宗の開祖である一遍上人と遊行を共にした弟子の真教上人によって嘉元元年(1303)に創建された古い寺です。山門は高麗門様式を取り入れた 17 世紀初頭のものとして推定されています。高麗門は城内のものとしては多く見られますが、寺院では珍しい様式です。この山門は、仮本堂に安置されている本尊の木造一遍上人像立像、無量光寺文書とともに市有形文化

財に指定されており、境内も市指定の史跡となっています。

谷原古墳群

古寺を後にして、途中静寂に包まれた小径を歩き、坂を登り切ると相模原ポンプ場の中に古墳が見られます。この古墳は 14 基ある谷原古墳群の 1 号墳で、昭和 46 年に調査され、ここに保存されています。石室入口は南向き、出土品は水晶製切子玉(首飾り)、金環(耳飾り)、鉄族などで 7 世紀前半のものと考えられています。

近くに点在している古墳を確認しながら最終ポイントの田名向原遺跡に向かいました。

田名向原遺跡



田名向原遺跡住居状遺構

田名向原遺跡は田名しおだ土地区画整理事業に伴って発掘調査が行われ、約 2 万年前の旧石器時代の住居跡と考えられる遺構が発見されました。径約 10 ㍍のほぼ円形の範囲から環状に巡る多数の礫と、その内側に 12 ヶ所の柱穴跡と 2 ヶ所の炉跡が認められ、主に黒曜石の石器が剥片を含めて 3000 点余り出土しています。住居状遺構は平成 11 年に国指定の史跡に、出土した石器は平成 22 年に県の重要文化財に指定されています。

傘をさしての探訪となりましたが、身近な文化財に触れる一日となりました。最後に探訪終了の集いをして解散しました。

当麻・田名のこの地域は、昔の面影を残している場所が多くあります。皆さんも是非この地域の歴史を確かめてみて下さい。

体験教室



「石器作り」に挑戦

昨年度よりも応募者増加！

黒曜石で石器作り

4月21日に、「黒曜石で石器作り」を行いました。当日は親子連れなど29名という多くの方の参加がありました。

最初に石器の素材である黒曜石について説明し、その後エントランス及び展示室に移動し石器の様々な種類や用途について解説しました。尖頭器やナイフ形石器、削器、搔器などの実物を見て、これから作る石器をイメージしてもらいました。今年度は「尖頭器」「矢じり」などと限定せず、配られた剥片の大きさや形に応じた石器を作ることになりました。



石器作りに集中

配布した黒曜石の剥片は、原石から叩き石で割り出したものであることを説明し、更に剥片から石器に加工する方法である「直接打撃法」と「押圧剥離法」について実演して見せました。

いよいよ、石器作りです。参加者の皆さんは石を割る体験は初めてのようで、緊張した面持ちで直接打撃やシカ角の先を強く押し当てる押圧剥離に熱心に取り組んでいました。思うように割れなかったり、剥片を真っ二つに割ってしまったり、悪戦苦闘しながらも何とか尖頭器やナイフ形石器、矢じりなどの思い思いの石器が出来上がりました。

完成した石器を見ながら、『これを狩猟に使ったら、すぐ割れてしまわないかな...』『この石器で本当に動物を捕れるのかな...』などのつぶやきが聞かれました。

<黒曜石とは>

黒曜石は火山活動により地上に噴出したマグマが急冷してできたものです。日本の産地は大分県姫島、長野県和田峠、伊豆七島神津島、北海道の白滝などが有名です。黒曜石は天然ガラスとも呼ばれ、加工しやすく割れ口が鋭く、石器の素材としては最適です。長野産などの黒曜石が田名向原遺跡まで運び込まれたことがわかっています。

次回の<黒曜石で石器作り>の体験教室は10月20日(日)に行います。ご家族・ご友人をお誘い合わせの上、是非、参加して下さい。

河原石で石器作り



相模川の河原石を使って石器作り

5月19日実施の石器作りも応募者が多く前日までに定員の30名に達していましたが、当日、残念ながら3件8名のキャンセルがあり22名の参加となりました。

今日の石器作りの素材は加工しやすい黒曜石ではなく、身近にある相模川の石を使っての石器作りです。

はじめに、旧石器時代や縄文時代に使われていた石斧や矢じりなどを通して、当時の時代背景について学習しました。

次に河原石で石器を作る方法について具体的に説明しました。

1. 石を探す(石器になりそうな石 台石 叩き石)
2. 石器になりそうな石を台石に叩きつけたり、叩き石を使って割る
3. 整形
4. 刃を付ける
5. 柄を装着

続いて、安全面の注意です。石器作りは危険を伴うので、ゴーグルと手袋は全員着用です。

いよいよ、相模川の河原に向かい石器作りがはじまりました。自然に家族単位ごとに分散し、河原での作業場が決まり石器作りが展開されました。割れ口の鋭い刃を持った剥片を上手に作り、そこから矢じりやナイフ形石器に加工したり、また石斧に挑戦する姿も見受けられました。腰を据えて真剣な眼差しで取り組む姿は、まるで旧石器時代にタイムスリップしたようでした。

作り上げた石器をハテナ館に持ち帰り、石器の大きさに適した柄を装着して、各自オリジナルの石器が出来上がりました。

誇らしげに石器を持ち帰っていく子どもの姿が印象的でした。



「石斧」完成